



学校だより

平成 29 年度 5 月号
平成 29 年 5 月 1 日
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

「6・3・1の法則」

～文武両道の太谷ロブランドをつくらう！～

校長 汐満 猛

日本では、旧暦 5 月を皐月（さつき）と呼び、現在では新暦 5 月の別名としても用います。「さつき」は、この月は田植えをする月であることから「早苗月（さなへつき）」と言っていたのが短くなったものです。農耕民族の日本にとっては、農作業と暦はとても関連が深いと言えます。

また、5 月は、3 日憲法記念日、4 日みどりの日、5 日こどもの日と祝日が一番多い月でもあります。土日を入れて 5 連休となり、まさに、ゴールデンウィークです。因みに、ゴールデンウィークの由来ですが、諸説あるなかで一番有力なのが、映画会社による業界用語だったという説です。映画業界では、正月やお盆の時期以外にヒット作が出るのはまれであり、「興行成績がよい期間」という意味で、この期間を「ゴールデンウィーク」と命名したそうです。

さて、中学生にとっての 5 月は、どういう月なのでしょう。ここであらためて、「6・3・1の法則」について述べたいと思います。基本的となる考え方は、1 学期・2 学期・3 学期をまとめて 10 としたとき、それぞれの学期の価値的なものを振り分けたものです。1 学期が 6 割というのは、新しいクラスでの委員会や係、班での自分の立ち位置をどうするのか、勉強や部活動、習い事に対する目標設定や取り組む姿勢が結果を左右するので、最初が肝心という意味です。2 学期が 3 割というのは、自分の行動の方向性が決まったら実践あるのみで、1 学期と 2 学期で 6 割+3 割=9 割の比重がかかるということです。3 学期の 1 割は、人間関係や勉強と部活動など結果の出る学期だということです。単純に考えて 3 学期だけでいい結果は出ません。ここで、大切なことが、1 年生は、3 学期の反省が 2 年生に関係してきて、2 年生は 3 年生に影響するということです。特に、3 年生は間違いなく進路に影響してきます。学期を学年に言い換えれば、1 年生で 6 割、2 年生で 3 割、3 年生で 1 割ということになります。もう理解できると思いますが、勉強でいえば 3 年生で一気に 1・2 年生の内容を勉強するのは大変だということです。3 年生の 3 学期は、良くも悪くも中学校生活 3 年間の結果を確認することになります。

5 月は、4 月に感じた新しい年度の想いを形にする月です。繰り返しますが、1 学期中に新しいクラスでの委員会や係、班での自分の立ち位置をどうするのか、勉強や部活動、習い事に対する目標設定や取り組む姿勢を決めてください。

保護者の皆様、この 1 学期が重要な学期であることをご理解いただき、子どもと一緒にそれぞれの目標設定をお願いします。目標→実践→結果→反省この流れ以外に良い結果は得られません。教職員一同本校の子ども達を熱き師弟愛で育てていきますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域の皆様にも重ねて、子どもの見守り等よろしく願いいたします。

